

国際原子力機関（IAEA）第 68 回総会
概要

令和 6 年 1 0 月 1 5 日
外 務 省

9 月 16 日から 20 日まで、ウィーンにおいて国際原子力機関（IAEA）第 68 回総会が開催されたところ、概要は以下のとおり。

1 上坂充内閣府原子力委員会委員長による一般討論演説

上坂充内閣府原子力委員会委員長は、我が国政府代表として総会に出席し、9 月 16 日（総会初日）に、日本として以下 3 点を重視する旨の一般討論演説を行った（一般討論演説全文は別添）。

- ・ NPT の 3 本柱の 1 つであり、SDGs 達成にも資する原子力の平和的利用への貢献
- ・ 原子力の平和的利用における最高水準の原子力安全、核セキュリティ及び保障措置の確保
- ・ 北朝鮮等の地域における不拡散課題やイラン核問題の解決とウクライナの原子力安全・核セキュリティの確保

2 主要な議題

(1) 北朝鮮の核問題

以下を主な内容とする決議がコンセンサスで採択された。

北朝鮮に対して、関連安保理決議に基づく全ての義務を完全に遵守し、全ての核兵器及び既存の核計画の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な方法での放棄に向けた具体的措置をとり、全ての関連活動を即時に停止することを強く求める。

全ての加盟国が、関連国連安保理決議に従って、自らの義務を完全に履行することの重要性を強調する。

北朝鮮に対して、NPT の義務を完全に遵守し、IAEA による保障措置の実施に対し迅速に協力するよう求める。

決議採択後、日米韓 3 か国は、同決議のコンセンサス採択を歓迎するとともに、北朝鮮に対して、全ての大量破壊兵器、あらゆる射程の弾道ミサイル及び関連する計画の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄に向けた具体的措置をとることを強く求めるとともに、北朝鮮による弾道ミサイルの輸出等を含め、拡大する露朝間の軍事協力を強く非難し、また、IAEA 事務局が続ける検証能力及び態勢強化の取組への支持を表明する旨の共同ステートメントを実施した。

(2) 保障措置の強化・効率化

以下を主な内容とする決議がコンセンサスで採択された。

保障措置は、核不拡散のための中核的な要素であり、効果的・効率的な保障措置の必要性、各保障措置協定締結国による協定上の義務の完全な履行の重要性を強調する。事務局長から理事会に対し、引き続き国レベル・アプローチの適用を通じて得られた知見を適宜報告する。

(3) 中東における IAEA 保障措置の適用

以下を主な内容とする決議が賛成多数で採択された。

全ての中東域内国に対して NPT への加入及び IAEA 保障措置に関連する国際的な義務の遵守を求めるとともに、全ての関係国に対して域内の非核兵器地帯設立に向けた取組を求める。

(4) 原子力安全

以下を主な内容とする決議がコンセンサスで採択された。

加盟国に対し、原子力・放射線安全インフラおよび関連する科学的・技術的能力を開発、維持、改善するよう奨励し、また、事務局に対し、要請があれば、その点を支援するよう要請する。

原子力安全関連条約の締結及びその義務の履行を加盟国に要請する。

小型モジュール炉、第 4 世代炉等の先進炉に関し、規制面に関する情報交換と経験の共有を奨励する。

IAEA 事務局は、原子力または放射性物質の事故への対応における役割を認識し、影響を受ける国と協力しながら、情報収集、検証、評価を行い、加盟国に対し、適時に情報提供を行う。

原子力施設に対する攻撃に関し、原子力安全及び核セキュリティ、物理的防護の重要性を認識し強調する。IAEA 事務局長が示した、原子力安全及び核セキュリティの 7 つの柱及びザポリッジヤ原発に関する 5 つの原則に留意する。

(5) 核セキュリティ

以下を主な内容とする決議がコンセンサスで採択された。

国際社会の核セキュリティ強化における IAEA の中心的な役割を確認する。サイバー攻撃に対する効果的対策を奨励する。

新たな技術に係る課題への対応や人材育成の重要性を確認する。

平和目的に利用される原子力施設に対するいかなる攻撃または攻撃の脅威も、核セキュリティを損なう可能性があることを認識し、IAEA 事務局長により示された「原子力安全及び核セキュリティの 7 つの柱」の重要性に留意する。

(6) 原子力科学技術・応用の活動強化

以下を主な内容とする決議がコンセンサスで採択された。

非発電分野

保健・医療、食料・農業、水資源管理、サイバースドルフ原子力応用研究所の改修事業等にかかる IAEA の活動等を支持するとともに、更なる強化を求める。

発電分野

低炭素エネルギー源としての原子力発電の普及に向けた IAEA の取り組みを賞賛する。小型モジュール炉に関する国際的な情報交換の促進や加盟国への支援を IAEA に奨励する。

原子力分野での女性の活躍推進に向けたマリー・キュリー奨学金プログラムやリーゼ・マイトナープログラムの進捗状況の報告を IAEA に要請し、加盟国にこれらのプログラムへの支援を奨励する。

(7) 技術協力活動の強化

以下を主な内容とする決議がコンセンサスで採択された。

技術協力活動の支援及び、強化に向けた加盟国の共同の責任、原子力の平和的利用の促進に向けた技術協力活動の重要性やこれら活動を通じた SDGs の達成等への貢献に期待する。

IAEA に対し、効率的・効果的な事業の実施、資源動員の強化、加盟国やその他関連するパートナーとの協力の強化等を求める。

(8) ウクライナにおける原子力安全、核セキュリティ及び保障措置

以下を主な内容とする決議が賛成多数で採択された。

ウクライナの原子力施設に対する全ての行為を直ちに停止するよう求める過去の IAEA 理事会決議にロシアが留意していないことに懸念を表明する。

特に公式に認められていない軍事要員等がザポリヰャ原発から即時撤退すること及びウクライナ当局の管理下へ同原発を迅速に戻すことを呼びかける。

IAEA 事務局長による 7 つの柱及び 5 つの原則を含むウクライナにおける IAEA の原子力安全等確保の取組を評価・支持する。

3 IAEA 及び他国政府代表とのバイ会談

上坂委員長は、我が国政府代表として、IAEA 総会のマージンで、グロッシー IAEA 事務局長、フルビー米エネルギー省核安全保障庁（NNSA）長官、ジャック仏原子力代替エネルギー庁（CEA）長官等とそれぞれバイ会談を実施し、原子力分野における連携強化に向けて意見交換を行った。

グロッシー事務局長とは、ALPS 処理水の海洋放出に係る IAEA との連携、原子力の平和的利用における IAEA との協力等につき意見交換した。その他の各国とのバイ会談では、日本と各国の原子力政策の現状につき情報共有した上で、今後の協力の在り方について意見交換を行った。

4 日本政府代表及び在ウィーン国際機関日本政府代表部大使主催レセプション

福島の食や観光を含む日本の魅力、ALPS 処理水の安全性、並びに原子力の平和的利用における日本の取組を PR するレセプションを開催し、福島県産の米を使用した寿司、福島県産の日本酒を提供した。レセプションでは、各国代表団や国際機関関係者等 200 人以上が参加し、上坂委員長及び海部篤在ウィーン国際機関日本政府大使から挨拶を行った。

5 サイドイベント

日本政府は IAEA 総会の機会を捉え、以下のテーマでサイドイベントを主催した。

・東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興

同サイドイベントでは、経産省や東京電力等から、廃炉と福島県における復興の概観、東京電力福島第一原子力発電所における廃炉の現状、燃料デブリの取り出し、オフサイトにおける取組の進捗を発信した。また、IAEA から ALPS 処理水の海洋放出に関連する取組の紹介がなされた。

・転移がんの有効とされる α 線放出核種を用いた核医学治療の臨床研究と社会実装

同サイドイベントでは、上坂委員長から日本の核医学治療の現状と展望を紹介した上で、有識者によるアルファ線治療の課題についてパネルディスカッションやプレゼンテーションを実施し、日本における核医学治療の研究状況を発信するとともに、国際社会との連携強化に取り組んだ。

また、スウェーデン主催のウクライナの原子力安全及び核セキュリティに関するサイドイベントに、ウクライナにおける「平和フォーミュラ」第一作業部会共同議長国として、海部大使が登壇したほか、原子力科学技術に関する研究、開発及び訓練のための地域協力協定 (RCA) の加盟国で共催したサイドイベントに、中野隆史 RCA 日本政府代表 (量子科学技術研究開発機構 QST アソシエイト) が登壇した。

(了)

(別添)

議長、

日本政府を代表して、議長就任をお祝い申し上げます。また、クック諸島とソマリアのIAEA 新規加盟を歓迎します。

【IAEA の役割】

国際情勢の変動や科学技術の進歩に伴い原子力が再び大きな注目を集める中で、IAEA の役割はますます重要になっています。このような中で、日本は以下の3点を重視します。

【原子力の平和的利用にかかる日本の取組】

第一に、NPTの3本柱の1つであり、SDGs達成にも資する原子力の平和的利用への貢献です。

(発電分野)

日本は、エネルギー安全保障や脱炭素化の観点から原子力エネルギーを重視しています。安全性を最優先に原子力を持続的に活用する方針のもと、原子力発電所の再稼働、運転期間の延長、次世代革新炉の研究開発に取り組むとともに、国際連携を通じたサプライチェーンの強化等を進めています。

(非発電分野)

また、原子力技術は、医療・農業・環境等幅広い分野に応用可能な重要な技術です。この観点から、日本は医療用ラジオアイソトープの国産化に取り組んでいます。

同時に、国際社会における平和的利用促進に向けて、日本は、平和的利用イニシアティブへの拠出も含め、Rays of Hope、Atoms4Foodといったグロッシェ事務局長のイニシアティブを、力強く支援しています。また、本年で25周年を迎えるアジア原子力協力フォーラムの枠組みを含め、国際協力を推進しています。

(フュージョンエネルギー)

日本は、昨年4月に我が国初となる国家戦略を策定し、新たに「フュージョンエネルギー産業協議会 (J-Fusion)」を設立するなど、次世代エネルギーであるフュージョンエネルギーの早期実現にも取り組んでいます。今後、同志国と連携し、安全確保にかかる基本的な考え方を今年度中に策定し、IAEAを含む国際社会との連携を強化します。

【平和的利用の裏付けとしての3Sの重要性】

第2に、最高水準の3S、すなわち、原子力安全、核セキュリティ及び保障措置の確保です。

（原子力安全）

日本は、東京電力福島第一原子力発電所事故の経験や廃炉に向けて培った知見を国内や近隣諸国を含めた国際社会に共有するとともに、原子力規制の改善に向けた国際社会の取組にも貢献しております。

A L P S 処理水については、これまでに8回の海洋放出を行っています。海洋放出は、I A E A の関与の下で行われ、近隣諸国を含む各国の分析機関や国際専門家も参加するモニタリングやレビューにより、その安全性を裏付ける実績が積み重ねられています。A L P S により浄化された後、さらに海水により十分に希釈された後、放出されるため、人や環境に影響を及ぼすことはありません。したがって、この日本から放出される水を汚染水と表現することは適切ではありません。廃炉に向けた取組も進んでおり、最難関である燃料デブリ取り出しを含む新たな段階へと進んでいきます。

I A E A は、その憲章上、原子力分野において国際的な安全基準を策定し、適用する権限を有しており、その権威や独立性を守ることが重要です。

日本は、I A E A の独立した、科学的根拠に基づく、長期にわたるコミットメントに対して感謝及び敬意を表するとともに、引き続き、内外のステークホルダー、とりわけアジア太平洋及びそれを越えた地域の関係者への関与を継続・強化し、国際社会に対して透明性の高い説明を続けていきます。

（核セキュリティ）

最高水準の核セキュリティの確保に向けて、日本は、核テロ防止条約及び核物質防護条約とその改正の普遍化を支持します。国内では、国際社会の脅威となり得る核物質の最小化に取り組んでおり、J A E A から全ての高濃縮ウラン（H E U）等の撤去が完了したほか、京都大学や近畿大学の研究炉からのH E Uの撤去や低濃縮化による教育研究活動継続の取組を着実に進めています。

本年迎えた国際核物質防護諮問サービス（I P P A S）ミッションからの日本の核セキュリティ体制は強固であるとの評価も踏まえ、引き続き核セキュリティ対策の向上に取り組めます。

（保障措置）

核不拡散の中核的手段であるI A E A 保障措置の強化・効率化に係るI A E A の取組を強く支持し、この観点から、包括的保障措置協定（C S A）、追加議定書（A P）及び改訂少量議定書（S Q P）の普遍化を推進します。

これら（3 S）を達成するためには、国際的な人材育成の取組が不可欠です。日本は、I

IAEA協働センターに指定されているJAEA核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）において、核不拡散・核セキュリティ分野での人材育成支援及び研究開発に長年取り組んでいます。本年、ISCNはトレーニング施設を拡充したほか、IAEA核セキュリティ教育ネットワークに新規加盟しました。日本はこのような貢献を更に強化していきます。

【地域の不拡散課題】

第3に、日本が北朝鮮等の地域における不拡散課題やイラン核問題の解決、ウクライナの原子力安全・核セキュリティ確保を重視していることを強調します。厳しい国際情勢の中でIAEAの献身的な取組を強く支持するとともに、引き続き積極的に議論に貢献します。

特に、北朝鮮による全ての大量破壊兵器、あらゆる射程の弾道ミサイル及び関連する計画の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄を強く求めるとともに、全ての国が関連する国連安保理決議を完全に履行する重要性を改めて強調します。

【結語】

日本はIAEAの責任ある加盟国かつ指定理事国として、グロッシ事務局長及びIAEA事務局のプロフェッショナルな取組に対し多大なる感謝の意とIAEAへの最大限の支援の継続を改めて表明し、結びとさせていただきます。

ありがとうございました。